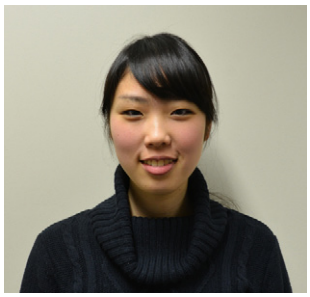
TEI 鼎談 DAN
学問と職業のカンケイから、大学進学を考える本

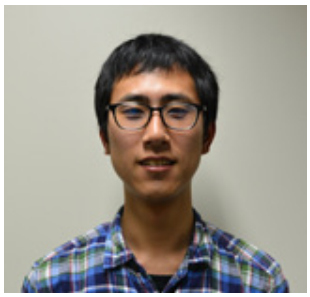
# 明治大学 政治経済学部

政治経済学部では、私たちにとって身近な「政治」と「経済」を、「地域」の視点を取り入れた3学科体制で幅広く学びます。ジャーナリズム論や社会学、民族／民俗学、文化論なども科目として備え、グローバルな視点から具体的な政策を構想できる力を養います。



■大学生
矢野郁美さん

■先生
高橋一行先生



■卒業生
簡野隆之さん

CONTENTS


●プロフィール　●大学生活について　●就職活動、仕事について
●5年後に向けて　●高校生へのアドバイス


## ●プロフィール

**明治大学政治経済学部の特色を教えてください。**

■先生

その名の通り、政治学と経済学の両方を学べるというのが最大の特徴です。日本には大学が750校ほどありますが、政治経済学部を設けているのは1％ほどにすぎません。多くは法学部の中に学科として存在していたり、経済学部として単体で設置されています。
明治大学の政治経済学部も、内部では政治学科と経済学科、地域行政学科の３つにコースが分かれていますが、それぞれの講義を履修することが可能です。ゼミも、他学科のゼミに所属することができます。

■卒業生
私も経済学科の学生ですが、先生の政治学科のゼミに参加していたんです。

■先生
入学してすぐの 1 年生では、政治学科の学生は政治学が必修、経済学が選択となります。経済学科の学生はその逆ですね。地域行政学科は、政治学と経済学のより融合した学びのために 2002 年に新設された学科で、1 年生から政治学と経済学の両方が必修となっています。というように、3 つの学科でそれぞれ目指す方向性や特色が違うのですが、実際は政治経済学部内の講義を全て自由に受講することができます。また他学部の講義も受講することが可能です。
明治大学の政治経済学部には、1 学年に約 1000 人の学生がいます。学部全体では学生数は約 5000 人に。それに対してフルタイムの教員が 100 名あまり、パートタイムの教員が 140 名も在籍し、授業は年間約 1900 講座開設されています。中には教えているのは政治・経済に関することですが、社会学や人類学を専門に学んできたという教授もいます。私自身も、政治学を専攻していますが、もともとは哲学や宗教を学んでいました。ゼミも年間 80 以上開かれていて、大人数を抱える学部ですが、ひとつのゼミは 10 名程度の人数で、密度の濃い議論や研究をすることができます。その内容を一言で表せば「多様性」。教授も学生も、様々なことに関心のある人材が集まってきて、それぞれの関心を活かして研究をしています。私のゼミの話を少しすると、提出される卒業論文のテーマを見るだけで、本当にバラエティ豊かですね。歴史について、アラブ諸国について、宗教について、と各自が自分の興味に応じた卒業論文を書いています。このように、政治経済学というのは、非常に懐が広い学問だと私は考えています。言ってしまえば、やりたいことが何でもできる学部なのです。

**では、先生は政治経済学部の中でどのような研究をされているのですか？**

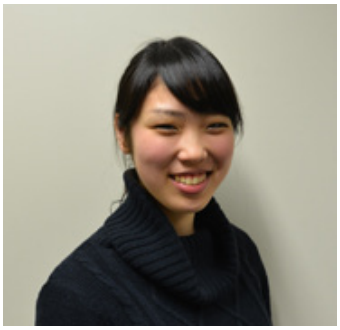
■先生
私は政治学が専門です。中でも 17 世紀以降の政治思想史を研究しています。といっても、哲学や宗教の要素も必須になります。現在は、イスラム諸国の問題に興味があって、一連の政治活動やテロ行為などに対して、フランスとアメリカの対応はどう違うのか、なぜ違うのかということを研究しています。その違いは、フランスとアメリカの宗教に起因しています。どちらもキリスト教ですが、フランスはカソリック、アメリカはプロテスタントと宗派が違います。その違いが、政治思想にも表れているのです。なので、原因を突き詰めようと思うと、キリスト教がカソリックとプロテスタントに分かれた 16 世紀の宗教改革まで戻って考えないといけないわけです。
でも、その見方や考え方は私のやり方です。同じテーマであっても、ほかの人であれば、現代と 16 世紀の対比で考えるかもしれない。現地に行ってフィールドワークをする人もいるかもしれない。いろんな観点から見ることができるのです。この「なにをやってもいい」というのが政治学の面白さだと私は考えていて、それをゼミで伝えたいと思っていますし、明治大学政治経済学部の懐の広さがあれば、必ず伝わると思っています。
だからか、卒業生の進路も非常に多岐に渡ります。大学院に進学する学生、教員になるもの、企業に就職する学生も金融業界や IT 業界、マスコミ、旅行代理店、食品メーカーと就職先は様々です。誰もが大学でやりたいことを見つけて、それに合わせた進路を選んでいるからでしょう。「将来のために何をしていいかわからない。でも、どこに進むのであれ活躍したい」と思っている方にはぴったり

の学部と言えるのではないでしょうか。
社会に出ると、求められるのはスペシャリストではなく、ゼネラリストです。日本の企業では、どんな場所、どんな部門でも同じく実力が発揮できる社員が求められる傾向が昔から強いですね。グローバル化が進む昨今では、世界のどこででも自分の考えを活かして活躍できる人材が求められています。そういう人材を育てようとしているのも、この政治経済学部の特色といえますね。

**グローバル人材の育成に対して行っていらっしゃることはありますか？**

■先生
短期間の留学制度は非常に充実しています。今回の二人もその制度を利用して留学を経験しています。毎年 20 ～ 30 人程度が、アメリカはカリフォルニア州にあるバークレー大学に 1 ～ 3 ヶ月間の短期留学に参加しています。

■卒業生
私が入学した頃にできた制度ですね。その制度がスタートすることを知って、明治大学を受験したんです。私は大学 2 年生の時に留学しました。あの期間は人生のターニングポイントになったといえますね。



■大学生
実は私もこの留学制度が、明治大学に入学した決め手のひとつでした。小さい頃から英語を学んでいたこともあり、「受験勉強用ではなく、実用的な英語を学びたい」という思いがあったんです。それで語学の勉強に強い大学を志していたのですが失敗し…。いろいろ探す中で明治大学政治経済学部の短期留学制度を知りました。国際政治が学べるというのも魅力でしたね。実際、私も 3 年生の 5 月から 3 ヶ月短期留学をしてみて、将来進みたい道が変わりました。教育についてのコースに参加したのですが、そこで見て、学んだことで、将来は教育など人に関わる仕事がしたいと思うようになりました。とても刺激的な経験でした。

■先生
短期留学制度では、参加する学生がまとまって同じプログラムを受けるという訳ではありません。選択するコースは、当人が選択します。なので、留学中はみんなばらばらで、多国籍の学生たちと学ぶことになります。自分だけの力で世界の人たちと学ぶという環境で 3 ヶ月間過ごすというのは、とても貴重な経験ですね。

■卒業生
私は興味本位で哲学のコースを選んだのですが、本当に大変でしたよ（苦笑）　哲学の授業は取っていなかったですし、全て新たに学ぶこと。しかも英語で。さらに、自分で考えたことを英語で、相手にわかるように話さなければならない。さすがにつらかったですね。でも、海外に行くと、人種や言語など、定まったものが何一つありません。何もかも、大きくて多様です。そういった広い世界を感

じたこと、そこで苦労したことは本当に貴重でした。いまの仕事でも当時の経験は大きく生きています。

**お二人が明治大学に入学されたのはどんな理由からだったのですか？**

■大学生
先ほど少し話したとおり、英語を学びたいというのが大学で私が目指していたことでした。だから実は明治大学は志望していなかったんです。でも、政治経済学部の HP を見て、国際政治学が学べることはもちろん、語学対策プログラムが充実していること、短期留学制度があること、他学部の授業も受けられることを知り「私のやりたいことにマッチしている」と感じました。
それに、私ってすごく好奇心が旺盛というか、興味の方向性が次々変わるんです。入学して「やっぱりやりたいことは英語じゃなかった」となったときに、政治経済学部ならほかにやりたいことが見つかるんじゃないかと思ったのも理由でした。

■先生
やりたいことがみつかる、そしてできるというのは、明治大学政治経済学部の大きな特徴ですね。専門のことだけを学ぶ学部と比べ、非常に自由度が高い。二人とも、興味の方向性が入学当初とは大きく変わって、教育の方向に進んだというのは面白いですね。

■卒業生
そうですね。私は入学当初は公認会計士を目指していました。明治大学には公認会計士養成を目的とした経理研究所があって、合格実績を見ると優秀でした。それで「ここで公認会計士を目指そう」と入学を決めたんです。1 年生から資格試験に向けて勉強していましたね。公認会計士になれば、やる仕事が一定に決まりますし、いろんなことを経験するチャンスも減るだろう、と留学に参加したのが 2 年生でした。そこで人生が変わりました。「もっと広い世界で活躍したい」と思うようになったんです。帰国してすぐに参考書や問題集を捨てて「さあ、どうしよう」と（笑） 先生のゼミに参加する中で、方向性も見えてきましたね。私が先生の政治学のゼミで教育、それも「いじめ」の問題を取り上げたのは、政治からの視点で解決策を考えられるはずだと考えたからです。当時、塾講師のアルバイトをしていて、教える現場の近くにいたことも影響しているかもしれません。また、いじめは身近なテーマですが、人によって意見が違います。議論が活発に行えるのではと思いました。実際、ほんとうに様々な意見が出され、「こういう意見もあるんだな」と自分とは異なる価値観や、物事の捉え方について吸収することができました。ゼミは結論を出すのではなく、意見を出し合って考える場でしたね。

## ●大学生活について

**ゼミはどのようなことをされているのですか？**

■先生
いま彼が話したように、３年生のゼミでは、毎週の担当を決めて順番に発表をします。発表の時間は90分。ゼミのタイトルは「政治学」ですが何をしてもいいのです。資料を読みますとか、自分の考えをプレゼンしますとか。そして発表の後で、みんなで議論します。大切なのは、自分が興味を持っていることを発表して、相手の関心も刺激すること。議論に引き込んで話し合えることです。そのためには、自分が発表することを相手に伝わるようにまずしっかり理解し、言葉を選んで話す必要がある。それができて、お互いに話し合うことができれば、先ほど彼が話したように、視野や知識も増えるし、刺激し合える。議論の仕方や、考え方と言った技術も身につく。それが４年生で卒業論文を書くときに役に立ちますし、社会に出ても生きてくるのです。
４年生のゼミでは卒業論文が中心になります。３年生で参加したゼミでテーマを決めて卒論を書きます。私のゼミは、自由に何を書いてもいいということになっています。全ては政治学に繋がっていますから。

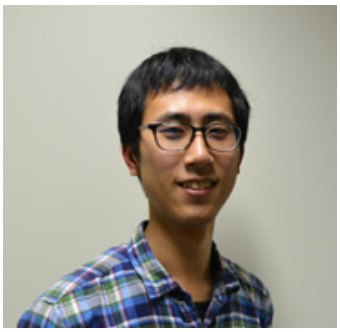
■卒業生
すべては政治学に繋がっている。本当にそうですね。私の卒業論文は「いじめ」がテーマですが、国が対策を立ててどうにかしないといけない、そして学校の体制を変革しなければいけない。なによりも、人間がそれぞれ変わるしかないという考えで書きました。

■大学生
私は興味の方向がよく変わるので…いまは最初に話したように教育についてとても興味を持って勉強し、活動もしています。卒業論文も教育で書くつもりです。きっかけは、短期留学で社会学を学んだこと。文化資本と社会資本の話を聞き、子どもの教育と文化資本がどう関わるのかというところに興味の焦点が合っていったんです。日本にも教育格差の問題があります。家庭の経済状況によって、受けられる教育に差が出てしまっているのです。３年生のゼミでは、留学で学んだ社会資本と文化資本を基にして、子どもの貧困について議論しました。通常は、経済的な面に議論が集まりますが、別の視点から議論することで、いろんな意見がもらえて私自身、様々な視点に気づきましたね。いまはNPO団体のプログラムに参加して、生活保護を受けている家庭の子どもたちに教育支援をするボランティアをしています。

## ●就職活動、仕事について

**将来の進路についてはどのようなところを考えていますか？**

■大学生
ボランティアのほか、アルバイトで塾講師もしていましたが、自分が教育の現場に立とうとは思っていません。就職活動では、広く人に関われるような、人材系や教育業界を見ています。留学やボランティアの経験を通して、人の成長に携わりたいという気持ちが出てきたんです。また、広告や商社なども並行して当たっています。いろんな文化と触れ合いたい、グローバルに働きたいという気持ちもあるので。いまは興味がその２つの方向に向いていますね。



■卒業生
私も「人と関わる」というのは就職活動で大切にしたポイントの一つでしたね。金融業界、中でも保険会社か証券会社に進みたいと思っていたんです。金融業界は、売る商品が目に見えない業界です。営業をするとき、買われるのは営業マンの「人間性」。証券会社や保険会社は、お客さまの人生を左右するような大きな商品を扱います。そこで、自分自身を試したいと思ったんです。よく「メンタル的につらい」と言われる業界ですが、留学の時にかなり鍛えられていましたから、そこは自信がありました（笑）

## ● ５年後に向けて

**５年後に皆さんは何をしているでしょうか？**

■大学生
就職して働いていると思いますが、どんな仕事をしているかまだはっきりわからないですね。でも、どんなことをしていても、いろんな方と関わって仕事をしていたいなと思います。職種や業界など、興味の向く先は関わっても、そこは変わらないと思います。

■卒業生
営業の仕事を経験して、次のステップに進みたいと思うようになってきました。目の前のお客さまに受け入れられることを目指す営業の仕事の範囲を超えて、もっとたくさんの人に信頼され受け入れられる商品を作ったり分析をしたりという仕事がしたいと思っています。商品開発やアナリストですね。そのためにはまずいまの仕事で大きな成果を上げないといけません。それと、それに値すると会社に認めさせられるくらいの成果を出さないといけません。５年後は社内でちょうど業務内容の転換のある時期です。そこで希望が叶うよう、仕事を頑張り、アピールもしていきたいですね。

■先生

私は専門家向けだけじゃなく、いろんな人が読めて政治学に興味を持てるような本を書きたいと思っています。世界情勢が大きく動いている昨今、いったい何が原因で、何を目的としてそういう動きがあるのかと言うことを、私たち日本人も世界の一員として理解するべき時が来ていると感じています。先ほども話しましたが、どうしてフランスでテロが起きるのか、アメリカで起こる場合とは理由がどう違うのか、その中で日本が求められていることは何か。そういうことを広く、より多くの人に知ってもらえる本を書きたいですね。５年間で３冊、そういう本を書ければ満足ですね。

## ●高校生へのアドバイス

**大学受験を控えた高校生にアドバイスをお願いします。**

■大学生

紆余曲折があって明治大学政治経済学部に入学した私ですが、もう一回大学受験ができるとしても、やっぱりこの大学に入学したいと思っています。それくらい充実していますし、いろんなやりたいことを見つけ、刺激を受けています。そのためにも、世界史はもっとがんばっておきたいですね。政治学科は世界史の知識があることが前提なんです。もし興味を持っている方は、歴史の勉強はしっかりやっておくべきだと思います。

■卒業生

高校時代は遊んでいた記憶ばかりですが、まだ遊び足りないなと思いますね（笑）　でも、社会人になって実感しているのは「勉強する時間が限りなく足りない」ということ。新しいことを手に入れたいと思っても、なかなかその時間を作るのは難しいです。それができるのは、やっぱり学生の間。あの時間は本当にすばらしく貴重なものだったなと思います。悔いの無いように頑張って欲しいですね。

■先生

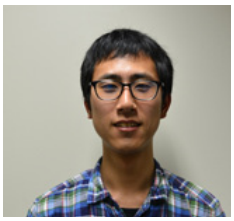
私が高校生の時は「なんでもできる」と世の中をなめていましたね（笑）　嫌いな科目も、そのうちできるよと放置していました。でも、そんなハズもなく、受験には失敗しました。努力しないと、できるようには決してなりません。だから、いまもし高校生に戻れるなら、どんな教科もがんばりますね。いまならどんな勉強もすべてあとから役に立つと知っていますから。ちなみに、私が進学した学部のひとつは理学部でした。そこに入るためには数学や物理などを勉強しました。数学や物理を学んだ経験は経済を学ぶ際に役立ちましたね。留学をするとしたら、英語は当然ですが、日本の文化や自分のことを話すために国語や日本史の教養も必要でしょう。というように全ての教科が後々役に立ってくるのです。学んできたことで使わないことはないのだな、と思うことがありますよ。

ただ政治経済学部を目指すのであれば、特に世界史は頑張って欲しいですね。今回お話しした私の研

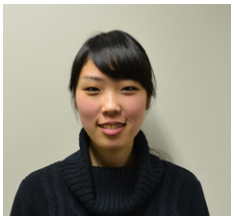
究内容に興味を持った方がいれば、世界史を学んでいるときに、堀内一史『アメリカと宗教』（中公新書）や工藤庸子『宗教 VS. 国家　フランス＜政教分離＞と市民の誕生』（講談社現代新書）を読んでみてください。きっといま感じている興味をより刺激してくれると思います。
冒頭で話しましたが、「何をしたいか今は分からない。でも、社会に出て活躍したい」と、そんな風に考えている方にとって明治大学政治経済学部は素晴らしい環境と言えるでしょう。出会える知識や学び、できる経験を楽しみ、ぜひ挑戦してください。

## ●インタビューに答えてくれた方々

■先生
**高橋一行先生**



■卒業生
**簡野隆之さん**



■大学生
**矢野郁美さん**